

## 世界初 絶滅危惧種の海鳥カンムリウミスズメの 人工巣による繁殖に成功！

### 6 年間におよぶ試行錯誤の成果 個体数増加に希望の光

公益財団法人日本野鳥の会(事務局:東京、会長:柳生博、会員・サポーター:約 5 万 3 千人)は、2009 年より絶滅の恐れのある海鳥カンムリウミスズメ(\*1)の保護に取り組んできました。個体数減少の一因である繁殖環境の悪化を改善すべく、2010 年より下田市神子元島にて人工巣を設置し(\*2)、6 年にわたり改良を重ねてきました。そして、ついにこの春、人工巣で 3 つがい繁殖し、5 羽のヒナが巣立っていきました。カンムリウミスズメが人工巣を利用して繁殖成功に至ったのは世界初であり、個体数増加に向けて新たな可能性が見えてきました。

#### ■繁殖地の環境が悪化し、減少するカンムリウミスズメ

カンムリウミスズメは日本近海にのみ生息する小さな海鳥です。推定個体数は 5 千から 1 万羽程度で、環境省により絶滅危惧 II 類に指定されています。一年のほとんどを日本周辺の海で暮らし、繁殖期にだけ無人島に上陸し、岩の亀裂や隙間などを利用して巣を構えます。しかし、近年のマリンレジャーの拡大でこうした無人島に立ち入る人が増え、人の出入りと共に侵入したネズミや放置されたゴミに誘引されたカラスにより捕食されるなど、繁殖が阻害されています(\*3)。こうした繁殖環境の悪化が一因となり、カンムリウミスズメの個体数は減少しています。

#### ■人工巣での繁殖成功は、個体数増加に希望の光

こうした状況を受け、2010 年にカンムリウミスズメの繁殖環境を改善するための人工巣の設置を神子元島で始めました。手探りでのスタートであり、設置から 3 年は利用されませんでした。そこで、改めて自然の巣のサイズ、形態、床の状態などを調べると共に、捕食者の状況を調査し、改良を重ねました。2015 年に実施したセンサーカメラを用いた調査で、天敵であるハシブトガラスが岩の割れ目や人工巣を覗き込んでいることや、周囲で成鳥を捕獲していることがわかりました。これを受けて 2016 年 2 月にカラス対策を強化した形に改良した結果、人工巣 3 つでカンムリウミスズメが営巣しました。繁殖期終了後に巣内を確認したところ、2 巣で孵化した卵殻 2 つずつと、1 巣で孵化した卵殻 1 つが見つかり、少なくとも 5 羽のヒナが無事巣立ったことが確認されました。人工巣を利用した繁殖成功はこれまで例がなく、世界初の快挙となりました。

#### ～カンムリウミスズメの重要生息地を守るために～

当会は、2010～11 年に伊豆諸島周辺海域でカンムリウミスズメの洋上個体数の一斉調査を行ない、その結果から伊豆諸島は最大の繁殖地である宮崎県枇榔島に次ぐ規模の重要な繁殖地であることを明らかにしています(\*4)。しかし、本地域でもカンムリウミスズメの個体数は減少しており、繁殖環境の改善が必要とされています。今回の神子元島での人工巣の成功事例をもとに、カンムリウミスズメが人工巣を利用する要件を洗い出してより効果的な改良を加え、カンムリウミスズメの個体数増加を図り、また、各繁殖地を確保することで保護増殖に取り組んでいきます。

(\*)について、詳しくは添付の資料をご覧ください。

本件に関するお問い合わせは

**公益財団法人 日本野鳥の会**

担当：保全プロジェクト推進室 手嶋洋子(teshima@wbsj.org) 田尻浩伸(tajiri@wbsj.org)

〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2634 FAX : 03-5436-2635 <http://www.wbsj.org>

## 資 料

### 1. カムリウミスズメとは

カムリウミスズメは、日本近海と韓国周辺にのみ分布するウミスズメ科の海鳥で、日本では、太平洋側は東京都伊豆諸島から宮崎県枇榔島、日本海側は石川県七ツ島から鹿児島県甑島までの島嶼や岩礁で繁殖します。伊豆諸島周辺では、新島、恩馳島、祇苗島、大野原島、小池根、神子元島で繁殖をしています。体長は約 22–26.5cm、ムクドリ程の大きさで、体重は 139–213g。繁殖期以外は日本周辺の洋上を移動しながら暮らしますが、詳しい生態は明らかになっていません。繁殖期に現れる冠羽が名前の由来となっています。推定個体数は 5 千から 1 万羽程度で、IUCN で VU に、環境省で絶滅危惧 II 類 (VU) に指定され、国の天然記念物にも指定されています。



繁殖期のカムリウミスズメ

繁殖地は主に無人島で、崖や急な斜面などの岩と岩の隙間、木の根元、地面のくぼ地などに巣を構えます。繁殖期以外は洋上で過ごすため、一般的には観察が難しい鳥ですが、繁殖地の島々の漁師の間では、チンチクやギャバなどと呼ばれ親しまれています。12 月～1 月になると繁殖地の島の周辺海域に姿を見せ始めます。3 月下旬にニワトリの卵よりも少し小さなタマゴを 1～2 個生み、雌雄交代で約 1 ヶ月抱卵します。ヒナは孵化するとわずか 1、2 日のうちに親鳥の声に導かれて海へ向かいます。親鳥からの給餌は洋上で行われ、その後、次に陸に上がるのは、繁殖のために再び繁殖地に戻ってくる時になります。非繁殖期には、太平洋沿岸を北上し、8 月には北海道やサハリン沿岸に達します。

### 2. カムリウミスズメの人工巣

人工巣の設置は、静岡県下田市神子元島 (下田港から南へ約 11km) で行なっています。伊豆諸島では岩場で営巣する機会が多いことから、2010 年コンクリート製の U 字溝を伏せて地面に置き、自然の岩でカモフラージュした人工巣を設置しました (第一世代)。3 年ほど経過を見ましたが利用されなかったため、再度自然巣のサイズや地面の状況などを調査し、設置場所を変更すると共に、U 字溝を割って、サイズや形状を変更しました (第二世代)。第二世代は、現地踏査の他、センサーカメラによる利用確認を行いました。この際、センサーカメラでハシブトガラスによる本種の捕食などが撮影されました。そこで、カラスによる脅威が避けられるよう、入り口部分にパイプを追加したり、U 字溝の組み合わせを変えるなどして奥行きを深くする改良を行ないました (第三世代)。この内、パイプを追加した 2 巣と石などで通路を作った 1 巣の計 3 巣が利用されました。



利用した人工巣の 1 つ



人工巣内に残された卵殻

#### 【人工巣利用確認の経緯】

4 月 15 日 ファイバースコープを用い人工巣の内部を確認。2 巣でカムリウミスズメ成鳥 (各 1 羽) の姿が確認された。

5 月 2 日 前調査で成鳥が確認された 2 巣でヒナの鳴き声を確認。

6 月 9 日 巣立ち後の時期を選び人工巣の内部を確認。先の調査で成鳥およびヒナの声を確認した人工巣でそれぞれ卵殻 2 個を確認。この 2 巣以外に、1 巣で卵殻 1 個が確認され、3 つの人工巣で少なくとも 5 羽のヒナが巣立ったことが分かりました。

※繁殖地への影響を軽減するため詳細な営巣場所は伏せさせていただきます。

### 3. カンムリウミスズメの繁殖を阻害する要因

2009 年以降、カンムリウミスズメの繁殖が確認された伊豆諸島周辺の島は6カ所になります。カンムリウミスズメは、これまで天敵や人の出入りが少ない離島や離礁を主な繁殖地としてきました。しかし、マリンレジャーの拡大により、こうした場所にも人が立ち入るようになり、釣人などが放置したゴミやまき餌に誘引され本島や本土からカラス類が飛来し、カンムリウミスズメの捕食者となっています。さらに、人の移動と共に繁殖地に入り込んだネズミによる捕食で、福岡県小屋島のように群全体が壊滅的なダメージを受けた島もあります。この他、刺し網による混獲や油汚染による死亡例が報告されています。さらに、繁殖地に人が立ち入るようになったことで、繁殖地が攪乱され親鳥が巣を放棄することが懸念されています。



カンムリウミスズメの繁殖地と保護区

### 4. カンムリウミスズメを守る取り組み

当会は、カンムリウミスズメの重要な生息地を明らかにし、最大の繁殖地である宮崎県枇榔島以外に 1,000 羽以上の規模の繁殖地を確保することを目標としています。この事業では、伊豆諸島周辺を活動地域とし、2009 年から洋上個体数や非繁殖期の分布、繁殖確認、捕食者などの調査、人工巣の設置などを行ってきました。2010-2011 年に行った伊豆諸島周辺海域の洋上個体数の一斉調査から新島、神津島、三宅島を結んだ三角形の中が重要な生息海域になっていることが分かりました。このような活動の積み重ねは、繁殖地である三宅島の大野原島、神津島の祇苗島の国指定鳥獣保護区の指定(2010 年)に貢献しました。

また、繁殖状況や新しい繁殖地の発見のため島ごとに洋上個体数調査を行なっています。2014 年度以降、カンムリウミスズメの巣の出入り時間の調査結果などをもとに調査の時間を午前 3 時に早めたところ、2015 年度に行った恩馳島と地内島の調査でこれまでの最大個体数が記録され、両島の繁殖地としての重要性が改めて示唆されました。

本事業を通して、カンムリウミスズメの繁殖環境を整え個体数の回復を図ると共に、過去の記録や洋上個体数調査の結果をもとに保護が必要な繁殖地を明らかにし、カンムリウミスズメの繁殖地の保護区化を目指します。

※この事業は、F氏カンムリ基金をはじめ多くの方からのご支援で実施しています。



カンムリウミスズメの確認地点と重要生息海域

#### 【事業に関するお問合せ・取材のお申込みは】

公益財団法人 日本野鳥の会

保全プロジェクト推進室 TEL 03-5436-2634/FAX 03-5436-2635

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

担当：手嶋洋子(teshima@wbsj.org)、田尻浩伸(tajiri@wbsj.org)

ホームページ <https://www.wbsj.org/nature/kisyou/sw/>

#### ※写真の使用について

写真の画像データは提供可能です。使用される場合には、「日本野鳥の会」のクレジットの記載をお願いします。